

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二二二二・一八一八
弊NPOは「憲法を改正、経済力と軍事力の両方で健全な国体を支える国家」を求めます。

『揺れる情(こころ)』通信⑧

稲荷山武田病院院長 土屋宣之/元京都医療センター外科部長
言霊(ことだま)という言葉があります。「ものあはれの情(こころ)」が言葉に乗り移って、この世に存続しているのでしょうか。言い換えれば日本人の情(こころ)がこの世に存続し続けているのでしょうか。

遺族会に勇気を出してやって来て頂いた方々は、今、あたかも故人が目の前に居るように生き生きと話されます。おしみなく涙も流されます。いい御供養になっていると思いますが、その一方で、ひよっとすると故人の情(こころ)が同じ会場に存続しているのではとも感じます。

私の孫の一歳前後の情(こころ)の成長を見ていますと、体の成長とは別に新しい情(こころ)が生まれてくる瞬間を見ているように感じます。この新しい情(こころ)は赤ん坊の情(こころ)として、独立して生まれてくるように思います。

京都市京セラ美術館

2月3日～9月1日

《村上隆 もののけ 京都》

現代美術の最前線で活躍する村上隆の大規模な個展を開館90周年を迎える京都市京セラ美術館において開催いたします。本展は主に海外を中心に活動してきた村上にとって国内で約8年ぶり、東京以外で初めての大規模個展となります。

かつて村上隆が企画した展覧会「スーパーフラット」は日本とアメリカの各都市を巡回、展覧会とともに発表された「スーパーフラット宣言」は現代美術シーンに重要な影響を及ぼしました。

本展は村上が活動初期から深い関心を寄せてきた江戸時代の絵師たちが活躍し、今尚あらゆる芸能と芸術が息づき交わり合うここ京都を舞台に新たに描きおろした超大作をはじめ、代表的なシリーズ、国内初公開となる作品など大多数が新作となる約170点で構成される新・村上ワールドです。ぜひご期待ください。

《令和六年を迎えて》

常楽臺住職 今小路覚真

探偵小説で一世を風靡した江戸川乱歩は、一九四五年の日本敗戦そして米軍を中心とした占領軍の進駐が始まったとたん、その直前までの日本社会全体の方向と180度転換した姿に接したとき、二度と筆を執ることはありませんでした。宗教界においては、基本的な体制に変化がみられなかったもので、自らが過去の過ちに気付き、反省の姿を見せるまでに随分と時間を必要としました。そして世代も変わりました。

過去は、文字で示された歴史としての認識の重さしか持たなくなってきたままです。肌感覚として伝わるものが希薄になってきています。

令和六年を迎えるにあたって、今一度歴史を自分のこととして振り返って、その上で戦争そのものを捉え直してみなければなりません。兵器を行使するのは軍隊です。しかしその軍隊に命令を下すのは政治です。

《ナポリピッツァ》

イタシヨク 福村直

イタリアを知る人は時々こう言います。「イタリアにイタリア料理はない。あるのは地方料理だ」。

日本人の私たちがとって不思議に思いますが、イタリアには共通した料理が存在せず、今までは地方ごとにその地方の料理を食べていたのです。しかしようやく全国共通して愛されるイタリア料理が登場しました。それが2013年に世界無形文化遺産に選ばれたナポリピッツァです。

私たちは古くから慣れ親しんでいたピッツァならぬピザはアメリカから渡ってきたもので、随分と生地が厚く具沢山でした。しかしピザはナポリ発祥で、インドのナンの様なモチモチした生地がこの地域で長く愛されていましたが、あくまで一地方料理。当時は対抗馬として生地が薄いローマ風ピッツァも知られていましたが、昨今のナポリピッツァのブランド力は強く、今ではほとんど話題にすら上りません。こうしてナポリピッツァはイタリア中どこでも味わえる唯一の料理となりました。

季節の家庭料理

田村 真紀

《二月 蓮根と牛肉のマリネ》

蓮根はビタミンC、カリウム、食物繊維、タンニン等の栄養素を含み、各々に肌の調子を整える、血圧上昇を抑える、便秘対策、抗酸化作用があり、美容に健康に良い食材です。

《作り方・約4人分》

蓮根 三百グラム・牛肉薄切り肉 二百グラム(食べやすい大きさに切っておく)・バジルの葉適量・オリブオイル適量・塩少々

☆(バルサミコ酢大匙二・醤油大匙一・黒胡椒少々)蓮根は皮を剥き三・四ミリ厚さの輪切りにし、水にさらしてから水気を拭きとる。フライパンにオイルを入れて熱し、蓮根が色づくまで焼きつけ容器に並べる。牛肉は軽く塩を振り両面を焼き蓮根に加える。☆を加え混ぜ合わせバジルを全体に散らし、しばらく置いて味をなじませる。

《大原流声明雑話⑭》

實光院住職 天納玄雄

良忍上人には家寛という高弟がいる。天台声明で初めての譜面集を編纂し、声明の弟子であった後白河院に献上した人物として知られる。東山七条の瓦坂に住んだので、瓦坂法印とも呼ばれている。

後白河天皇はこの頃、三十三間堂に隣接した法住寺殿に院政を布いていた。自ら専門書を書くほどの今様狂いと知られているから、音楽的興味が尽きなかったのだろう。近所で声明の研鑽を積む家寛の噂を聞き、門下に飛び込んだのではないかと思う。

こうした経緯で譜面集が編まれたのであるが、現代のものと比較するとかなり簡易的な譜であると気付く。実は譜面と言っても、この頃のものには備忘録的なものに過ぎないのだ。きつと後白河院も、声明を殆ど諳んじてお唱えになったのではと思うのである。